

【保土ヶ谷区】令和4年第1回区づくり推進横浜市議会議員会議 議事録

開催日時	令和4年2月4日 午前10時25分 ～ 午前11時25分
場 所	保土ヶ谷区役所本館2階 202会議室
出席者	<p>【座 長】 青木 亮祐 議員</p> <p>【議 員】 斉藤 伸一 議員</p> <p>森 ひろたか 議員</p> <p>北谷 まり 議員</p> <p>磯部 圭太 議員</p> <p>【保土ヶ谷区】 出口 洋一 区長</p> <p>小林 仁 副区長</p> <p>岩井 裕子 福祉保健センター長</p> <p>金島 幸雄 福祉保健センター担当部長</p> <p>井上 義晃 保土ヶ谷土木事務所長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和4年度保土ヶ谷区編成予算案について</p> <p>2 その他</p>
発 言 の 要 旨	<p>議題1 令和4年度保土ヶ谷区予算案について</p> <p>(1) 輝けシニア！2025事業について</p> <p>北谷議員：</p> <p>訪問介護や訪問看護といった、在宅での介護・療養はこれからますます増えていく。一点目として、利用者・患者からの不満を聞く体制がどのようになっているのか。二点目として、訪問介護士や訪問看護師が利用者からハラスメントを受けることが多いのではと思うが、対策はどうなっているのか。</p> <p>金島福祉保健センター担当部長：</p> <p>在宅療養支援を行っている区内の診療所について、区で把握している範囲では、訪問診療が可能な診療所は25か所、そのうち訪問診療のみを行っているところは少なくとも5か所あり、様々な形で在宅での見守りが進んでいると認識している。</p>

ハラスメントについて、厚生労働省が行った令和2年度調査によると、訪問介護・訪問看護の中で過去1年間に利用者あるいは家族からハラスメントを受けたことがあると回答した方が概ね4割くらいあったとのことである。区内での数値は把握はしていないが、実際にハラスメント的な言動や暴言を吐かれたケースがあるとは聞き及んでいる。

北谷議員：

国の調査でもそういった実態が報告されている。訪問診療や訪問介護など在宅での事業が重要になっている中で、ハラスメントなどについて、区役所も事業者と連携して是非対策・対応に取り組んでほしい。

人手不足が厳しい現場で、ハラスメントが続くとますます状況が厳しくなっていくと思う。何らかの改善策が図られるよう取組を進めてほしい。

(2) 多文化共生まちづくり事業について

北谷議員：

現在パブリックコメントが実施されていると思うが、どのような意見が寄せられているのか教えてほしい。

石川区政推進課長：

1月末から2月28日までの期間で市民意見募集を実施している。今のところ、ご意見はいただけていないが、引き続き、ご意見をお待ちしている。

(3) ほ도가やカーボンニュートラル推進事業について

森議員：

「区民一人ひとりが地球温暖化防止行動に取り組むための支援」とあるが、令和3年度に取り組んだ具体的な取組事例があれば教えてほしい。

石川区政推進課長：

今年度は、コロナ禍においても安心して参加いただけるイベントとして、「歴史浪漫ほ도가や事業」の若年層を対象としたイベントと合同で、エコをテーマとしたクロスワードや、保土ヶ谷のまちを実際に歩いて答えを出すような謎解きのイベントをお子様向けに開催した。

(4) 地域見守り推進事業について

森議員：

保土ケ谷区においても高齢化率が高まっており、民生委員・児童委員の担い手確保は喫緊の課題と認識している。今後も高齢化が進展していくことを踏まえると、人に頼るだけの対策には限界があると考えている。現在、民間企業では新たな方策としてIoTを活用して独居の方を見守る施策が進められてきており、区としてもこういったものとも連携して取り組んでいくべきだと思うが、どうか。

檜崎福祉保健課長：

地域の見守り活動については、企業や地域の皆様との連携、インターネット技術を活用した見守りなど複合的に考えていく必要があると考えている。先進技術の活用については、健康福祉局と連携しながら、こういった形が良いかななどを検討していく。

森議員：

複合的なIoTを活用した対応・対策を是非前向きに検討してほしい。

(5) 地域が見守る子どもたちの放課後事業について

北谷議員：

新年度から放課後児童クラブの申請事務に変更があるようだが、放課後児童クラブへの説明会の開催予定を教えてください。

川瀬学校連携・こども担当課長：

2月9日に公会堂の会議室で行う。まん延防止等重点措置の実施期間であるため、公会堂での参加者を限定し、併せてオンラインでも参加できる形で実施する予定。

北谷議員：

事務に変更があると負担が大きいため、丁寧にご説明いただくようお願いしたい。

ネットワーク会議について、参加するメンバーはどう考えているのか。

川瀬学校連携・こども担当課長：

現在学習支援を行っている放課後キッズクラブや、これから事業に参加していただく放課後児童クラブ、また地域学校協働本部で学習支援を行っているところなど、見守りを行っている団体に広く集まっていただきたいと考えている。

北谷議員：

子どもの見守りや放課後育成事業に携わっている様々な方にとって、こういった意見交換やネットワークは大事だと思うので、よろしくお願ひしたい。

森議員：

3年度予算から200万円程度減額になっているが、その理由を伺いたい。
また、放課後キッズクラブと放課後児童クラブにおいて放課後学習支援を行うということだが、教育委員会がやっている地域学校協働本部でも同じような取組を行っているところもあり、その活動とのすみ分けをどのようにしていくのか。

ネットワーク会議で地域学校協働本部の活動を行っている小中学校とも連携していくというイメージかと思う。協働本部もこの事業も教え手の確保や地域との連携といった、同じような課題を抱えているが、ネットワーク会議を進めていく中で、その支援の幅を広げていくつもりがあるかを伺いたい。

川瀬学校連携・こども担当課長：

予算が減額された点については、今までに学習支援を行ってきた放課後キッズクラブでは、必要な物品などが一定程度整備されてきており、実態に応じたこの金額で十分であると考え、来年度の予算を計上した。

地域学校協働本部との差別化については、NPO法人を設置している協働本部などもあるが、まだまだこれから活動を進めていくというところもある。今回、この事業については小学生を対象としており、そこで地域学校協働本部とも一緒に取組ができれば、と考えている。ネットワーク会議を行っていく中で、それぞれの課題などを確認しながら次へ進めていきたい。

森議員：

ネットワーク会議が非常に重要になってくると思うので、地域学校協働本部がある小中学校の意見もぜひとも聞いていただきたい。

齊藤議員：

2月9日の公会堂での放課後児童クラブの説明会だが、どういった内容の説明会なのか。

川瀬学校連携・こども担当課長：

来年度からの運営について、夏以降に開所時間が早まるなど一部変更があり、補助金の申請についての説明と、内容が変更となった点について説明する。

齊藤議員：

こども青少年局から、来年度補助金制度の見直しによって事務を簡略化すると伺っている。それによって運営に携わる保護者の負担を軽減していくと聞いているが、その説明ということか。

川瀬学校連携・こども担当課長：

そのとおり。

齊藤議員：

是非、保護者の負担軽減をお願いしたい。

議題2 その他

(1) 西部児童相談所の再整備工事及び青少年相談センター移転について

北谷議員：

12月の常任委員会でも申し上げたが、はばたきと青少年相談センターの移転に伴って足が遠のいてしまうことのないように、利用者の皆様への周知について、改めて配慮をお願いしたい。

村上こども青少年局こども家庭課児童施設担当課長：

承知した。

(2) 星川駅周辺のバス交通アクセス向上検討事業について

磯部議員：

星川駅南口の交通広場バスターミナル開設に伴う便数の確保について、私自身も交通局や相鉄バスと話をする機会をいただいた。区役所の努力もあって、交通局は横ばい、相鉄は残念ながら中距離路線を中心に一部は減便になるが、増便していただいている路線もある。コロナ禍で利用者が大変減っている中であっても、地域の利便性に関して各事業者に努力していただいたことに、まずこの場で感謝したい。

ルートが変わることによって、初めてバスが通るところ、そして今までバスが通っていたが大幅に便数が増えるところがあるが、そのあたりの安全について、区役所に寄せられている声があれば教えていただきたい。

石川区政推進課長：

星川郵便局前の交差点におけるバスの右左折や、交差点から駅の間で星川小学校の通学路になっている、線路に並行した、通称「下道」と呼ばれる道を横断する児童の安全について、不安を感じているという声をいただいている。また、星川町の交差点を右折するバスを不安視する声もある。

磯部議員：

安全を懸念する声は私のところにも届いており、直接、各事業者に安全対策をお願いしたところでもあるが、この安全を懸念する声について、考えていることや対応していることがあれば教えていただきたい。

石川区政推進課長：

昨年 11 月に星川郵便局前の交差点の全体の交通量及びバスを含む大型車の台数について交通量調査を実施し、星川 1 丁目から 3 丁目の会長の皆様へご報告をしている。また、星川町交差点を右折しているバスについては、4 月以降交差点を直進して新しい都市計画道路を通行するルートに変更する予定となっている。

磯部議員：

3 月には運行ルートの試走やバス乗務員の安全教育が行われるとあったが、4 月以降、実際にバスが走りだしてから十分状況を注意して、必

要なことがあれば対策していただきたい。

また、バスルートが一部変わることによって、今まで止まっていたバス停にバスが止まらなくなるところがある。具体例を挙げると、どれぐらいの利用者がいるかは分からないが、星川ランプから星川駅南口の交通広場までの間にバス停がなくなり、利便性が低下する恐れがあると思う。昨今、バス停の安全対策が問題となっており、新しいバス停を設けるといのは至難の業であることは承知している。この4月には間に合わないと思うが、利便性の低下については、地元やバス事業者、関係各所と、私も継続的に意見交換をしているところであり、今後も地元のニーズを把握の上、関係各所と引き続き協議していきたい。区役所としても、地域のニーズをしっかりと把握して状況を注視していただきたい。

森議員：

一点目は要望だが、通学路の対策について、かねてから歩車分離含めて地元からも要望が上がっているところだと思うので、その点は引き続き検討をお願いしたい。もう一点は、今回、便数が増便・減便するが、これは平日1日あたりで示していただいていると思う。土日の状況はこれまでと変化なしなのか、また新設路線についてはどのような状況になっているのか教えてほしい。

石川区政推進課長：

一点目については、4月1日の乗り入れ開始後の状況も注視しながら、引き続き検討してまいりたい。二点目の休日の便数については、バス事業者から示されていないので、今はお答えできない。

森議員：

示されたタイミングでよいので情報の共有をお願いしたい。

斉藤議員：

私もこの周辺や少し離れた方から、色々のご意見をいただいている。特に交通安全対策では、バス路線が変わることによって、思いもしないことが起きるかもしれない。これまでも区役所として、特に石川課長を中心に様々ご対応くださってきたと思う。その上で、これで固定ということではなく、特に地域の皆様のニーズも捉えながら、柔軟にバス事業者また周辺

近隣の皆様のご意見もいただきながら、よりよいバスルートを検討してほしい。星川のバスターミナルができ、初めてのバスルートの改変でもあるので、ここから先、さらに改善を重ねていく必要があると思う。私たちもしっかりと区役所にもお伝えしていくので、ぜひとも引き続き対応をお願いしたい。

(3) 保土ヶ谷駅東口周辺環境改善事業について

森議員：

東口ロータリーを整備して、新たな玄関口としてきれいに整備がされてきたと感じている。かねてより、福祉車両の一時停止場所の確保ということ要望してきた。保土ヶ谷駅西口も東口も福祉車両が止まる場所がなく、一号線で停車して乗下車する様子などが見受けられる。ロータリーの中が難しいということであれば、この後の議題にもある地域ケアプラザの一部に福祉車両が乗下車できる場所を確保するなど、障害の有無にかかわらず、安心してこの駅を利用できる環境整備を改めてお願いしたい。

出口区長：

駅前広場や駅周辺の空間は地域の顔でもあり、多くの方が利用する場所なので、高齢者、障害者、ベビーカーなど、すべての人にとって利用しやすい環境であることが望ましいと考えている。地域ケアプラザの駐車場はもともと決まった必要な台数分しか整備しない。開所後、運用の中で何か工夫できることがあるかどうか、運営法人等と考えていければと思う。

森議員：

ぜひよろしくをお願いしたい。東口はエレベーターも設置されて、車いすの方々も利用されると思うが、車を停める場所がないということもある。その点、課題として認識をいただければと思う。

磯部議員：

保土ヶ谷駅は、神奈川県各地と東京・千葉方面を結ぶ広域鉄道路線である横須賀線の停車駅で、バス便も多い。古いデータだが、一日あたり約7万人の方が利用される駅であるにも関わらず、東口西口ともに、そのポテンシャルに見合った街の魅力が十分発揮できていないと思う。議会の場でも指摘・要望したが、東口の鉄道と国道による駅の分断や、そもそもの

東西の分断もあって回遊性の向上が必要であること、また東口の商店街は建物の老朽化が進み、営業していない店舗もあることなどが課題であり、駅前の賑わいが十分でないと思っている。県税事務所跡地の計画が順調に進んでいて、来年には竣工になると思う。すぐ解決できる課題ではないと十分承知しているが、ぜひ対応していただきたい。保土ヶ谷駅周辺を魅力的な街として再生できるように、今回の交番の設置やトイレの再整備等の短期的な事業にとどまらず、長期的な視点をもって取り組んでいただきたい。

斉藤議員：

先ほど福祉車両という話があった。東口については、これまで「バリアフリー」「行政サービス」というキーワードで進めてきていただいた。そういう意味では福祉車両が利用しやすい環境づくりは前提だと考えているので、この点は区を上げて取り組んでいただきたい。

また、議会でも何度となくやり取りしているが、将来の大きな方向性として、複合ビルの2階部分で保土ヶ谷駅と結ぶということがあるため、この点は区も関与してほしい。

最後に、所管は資源循環局だと思うが、公衆トイレのバリアフリー化に関連して、公衆トイレに時計をつけてもらえないかという要望がある。私たちからすれば、腕時計をつけていたり、スマートフォンを見たりするが、高齢の方からすると、案外ぱっと時計を見ることができない。またスマートフォンを持っているわけでもない。特に日中バスを使う方が多いので、以前から東口に時計を設置できないかと区役所にも相談してきたが、なかなか難しいということであった。公衆トイレの再整備を契機に、バスロータリーから見やすい位置に時計を設置していただければよいお願いしたい。

(4) 保土ヶ谷地域ケアプラザ（仮称）の整備状況について

斉藤議員：

保土ヶ谷地域ケアプラザの対象範囲は町で言うとどのあたりとなるか。

檜崎福祉保健課長：

岩崎地域ケアプラザが管轄している、保土ヶ谷町1丁目、瀬戸ヶ谷町、霞台、月見台、帷子町、西久保町、岩間町、神戸町、岩井町のあたりが対

	<p>象となる。</p> <p>齊藤議員： 西区・南区と隣接した地域でもあるが、保土ケ谷地域ケアプラザは今おっしやった地域を対象とした施設なのか。</p> <p>檜崎福祉保健課長： 介護保険のサービスなどについては圏域が設定されているため、岩崎地域ケアプラザから引き継ぐ形になるが、諸室や地域交流活動などについては、保土ケ谷区のエリアに関係なく使っていただける。地域活動の中で隣接区との交流なども進めていると聞いており、そのような活動を支援していきたい。</p> <p>齊藤議員： 地域ケアプラザの入る複合ビルには保育所も予定されている。また、東海道保土ケ谷宿として、保土ケ谷の顔となる大事な複合ビルとなる。このケアプラザにも多目的ホールなど、お子さんから、子育て世代のお母さん、ご年配の方など様々な方が出入りすることになる。地域交流スペースなど、このビルそのものが色々な意味で生かされていく運営を心がけていただきたい。今後指定管理者を指定すると思うが、区からも意見交換をしていただき、そうした視点も踏まえて進めていただければと思う。</p> <p>檜崎福祉保健課長： 今までも、地域の皆様との懇談会等で、調理室にお子様にも使いやすい高さの作業台を設置してほしい等のご意見を頂戴してきている。このような意見を踏まえ、今後も幅広い世代の方が交流して、地域に愛される施設になるよう支援していく。</p>
備 考	